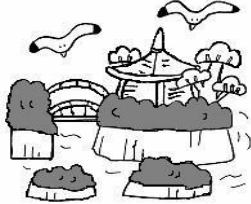


評価対象年度	平成24年度	施策評価シート		政策	2	施策	5
施策名		5 地域が潤う、訪れてよしの観光王国みやぎの実現		施策担当 部局	総務部, 環境生活部, 経済商工観光部, 農林水産部		
「宮城の将来ビジョン」における体系	政策名	2 観光資源、知的資産を活用した商業・サービス産業の強化		評価担当 部局 (作成担当 課室)	経済商工観光部 (観光課)		

施策の目的 (目標とする宮城の姿)	○ 宮城の魅力が絶え間なく国内外に発信され、観光地みやぎのイメージが定着している。 ○ 自らの住む地域に誇りを持ち、観光のもたらす効果が県民に理解されるとともに、自然環境や食文化など地域の観光資源が磨き上げられ、観光客に対する質の高い受入体制が整っている。 ○ 外国人や高齢者、障害者、子ども連れなど、だれでも訪れやすい観光地づくりが進んでいる。 ○ 東北地方の観光の起点としての機能が強化され、東北各県と一体となって観光を推進している。 ○ 交流人口が拡大し、観光客入込数が2割程度増えている。	
施策の方向 (「宮城の将来ビジョン・震災復興実施計画」の行動方針)	◇ 大型観光キャンペーンなど、官民一体となった積極的な誘客活動を推進する。 ◇ インターネット等広報媒体を活用した効果的な情報発信により知名度の向上を図るとともに、団塊の世代、首都圏からの観光客など対象を絞った戦略的な集客活動を推進する。 ◇ 県民の観光に対する意識の向上を図るとともに、地域一体となった「もてなしの心」向上のための取組を強化する。 ◇ 温泉や食材、地域の産業など宮城独自の資源を生かした体験・滞在型観光を発掘し、観光ルートとして整備する。 ◇ 観光施設及び案内板・標識を整備するとともに、バリアフリー・ユニバーサルデザインの普及を推進する。 ◇ 地域が主体的に観光振興に取り組む組織・体制づくりを強化するとともに、主体的に自らの地域の魅力を売り出していける人材づくりを推進する。 ◇ 都市と農山漁村が理解し合い、相互に支え合うグリーン・ツーリズムを目指し、推進環境の整備、人材育成、情報発信、地域活動の活性化を支援する。 ◇ 県内市町村や関係機関と連携し、観光推進組織を強化する。 ◇ 宮城の知名度を高めるためのプロモーションの実施や県内の受入体制の整備などにより、外国人観光客の誘致を促進する。	

決算(見込)額 (千円)	年度	平成23年度 (決算額)	平成24年度 (決算(見込)額)	平成25年度 (決算(見込)額)
	県事業費	720,161	901,944	-

※決算(見込)額は「宮城の将来ビジョン推進事業」と「取組に関連する宮城県震災復興推進事業」の合計額(再掲分含む)

目標指標等	■達成度 A:「目標値を達成している」(達成率 100%以上) B:「目標値を達成しておらず、達成率が80%以上100%未満」 C:「目標値を達成しておらず、達成率が80%未満」 N:「実績値が把握できない等の理由で、判定できない」					
	■達成率(%) フロー型: 実績値/目標値 ストック型: (実績値-初期値)/(目標値-初期値)					
		初期値 (指標測定年度)	目標値 (指標測定年度)	実績値 (指標測定年度)	達成度 達成率	計画期間目標値 (指標測定年度)
1	観光客入込数(万人)	5,679万人 (平成20年)	- (平成23年)	4,315万人 (平成23年)	N -	6,129万人 (平成25年)
2	観光消費額(億円)	5,751億円 (平成20年度)	- (平成23年)	4,428億円 (平成23年)	N -	5,387億円 (平成25年)
3	主要な都市農山漁村交流拠点施設の利用人口(万人)	868万人 (平成20年度)	924万人 (平成23年度)	1,052万人 (平成23年度)	A 113.9%	960万人 (平成25年度)

■ 施策評価（原案）	やや遅れている
-------------------	----------------

評価の理由	
目標指標等	<ul style="list-style-type: none"> ・一つ目の指標「観光客入込数」については、東日本大震災の影響もあり前年から約30%減少。目標値は震災後の見直しで平成25年度までに震災前の平成22年時点まで回復することと修正。インフラ整備の遅れている沿岸部については50%以上の減少を記録している。 ・二つ目の指標「観光消費額」については、入込数の減少と比例して大幅に落ち込んだが、宿泊者数は震災復興需要により逆に増加したため、推計項目のうち「宿泊費」のみ増加となった。 ・三つ目の指標「主要な都市農山漁村交流拠点施設の利用人口」については、主に農産物直売所の利用増により、目標を超えた実績となった。 ・指標1, 2ともに震災の影響を受けたことにより、目標値設定ができなかったため、達成度判定を行うには適当ではない。
県民意識	<ul style="list-style-type: none"> ・平成23年調査においては、「高重視群」の割合が70%を越える県民の理解の高い施策であったが、平成24年調査での類似する施策である震災復興計画の分野3・取組2・施策11, 12, 13の調査結果を参照すると、優先すべき施策としてのポイントは低下傾向にあるものと見られる。同じく平成24年の県民意識調査の「満足度」割合を見ると『満足群』の割合は40.2%と、平成23年調査の54.4%と比較すると低下している。しかしながら満足群割合については、他取組と比較しても高いことから、震災以降の取組についても一定の評価を受けているものと考えられる。
社会経済情勢	<ul style="list-style-type: none"> ・震災による甚大な被害や震災以降の観光自粛ムード及び原発事故の風評の影響等により観光客数の落ち込みが激しい。集客施設が消失し、インフラの復旧が遅れている沿岸部は依然として厳しい環境にあるが、復興事業関係者の入込による活況も見られる。かたや内陸部は比較的早期にほぼ全ての施設が営業を再開したが、震災前の水準までには回復していない状況にある。また、宿泊者数は沿岸被災地への復興需要等による特殊要因から仙台市内のホテル・旅館を中心に高い稼働率となっている。
事業の成果等	<ul style="list-style-type: none"> ・沿岸部の宿泊施設等を始めとした観光施設の再建復旧については、県単独の事業や国のメニューを活用して事業者の復旧費用に対する支援を積極的かつ継続的に行った。 ・観光自粛ムードや風評の影響による観光客の落ち込み対策として、平成25年のデスティネーションキャンペーンにつながるブレキャンペーンの実施や首都圏でのキャラバン事業、教育旅行誘致など様々なアプローチで複合的な誘客事業を行い交流人口の回復に努めた。

※ 評価の視点： 目標指標等、県民意識、社会経済情勢、事業の実績及び成果等から見て、施策に期待される成果を発現させることができたかという視点で、総合的に施策の成果を評価する。

施策を推進する上での課題と対応方針（原案）	
課題	対応方針
<ul style="list-style-type: none"> ・沿岸部については、嵩上げ等のインフラ整備の遅れが見られ、復興事業が長期に及ぶ懸念があるため、進捗に応じた息の長い支援が必要である。 ・原発事故の風評の影響の長期化と震災に対する記憶の風化が懸念される。また、原発事故の風評の影響だけではなく、放射線線量への反応が顕著である外国人観光客については回復が遅れており、正しい情報発信と安全・安心のPRが重要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続的な支援に向けた支援メニューの検討と事業者に寄り添ったきめ細やかな対応を行っていく。 ・デスティネーションキャンペーンを起爆剤とした継続的な観光宣伝を実施していく。また外国人については、重点4市場(中国、台湾、香港、韓国)を対象とした積極的な誘客活動を展開し、回復を図っていく。

評価対象年度 平成24年度

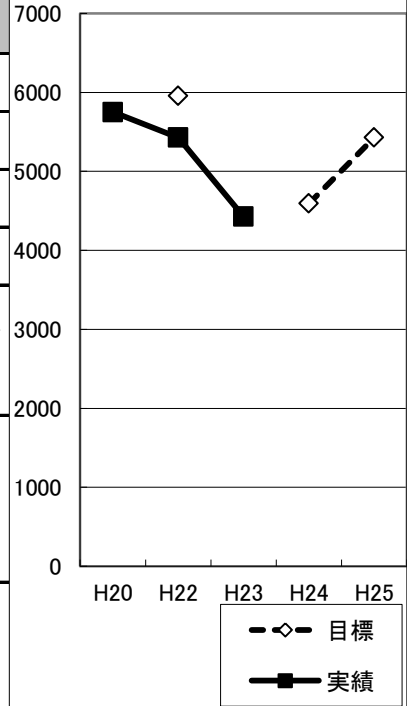
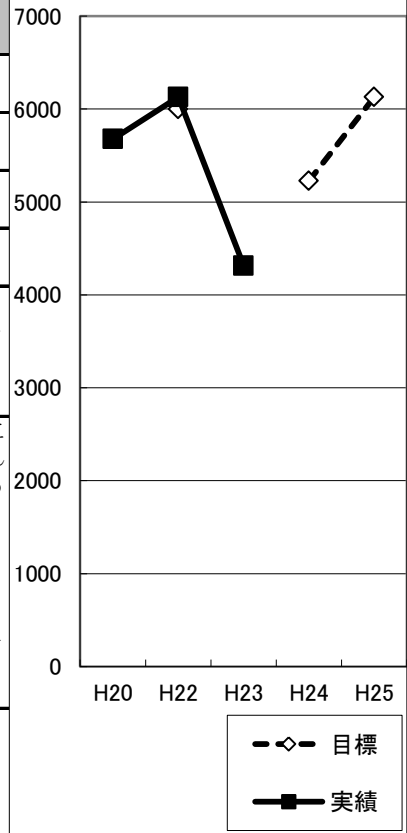
政策 2 施策 5

目標指標等の状況

■達成率(%) フロー型:実績値/目標値 ストック型:(実績値-初期値)/(目標値-初期値)

1	目標指標等名 (下段:説明)	評価対象年度	初期値	H23	H24	H25	H26
	観光客入込数(万人) [フロー型]	指標測定年度	H20	H22	H23	H24	H25
	目標値	-	6,000	-	5,227	6,129	
	実績値	5,679	6,129	4,315	-	-	
	達成率	-	102.2%	-	-	-	
目標値の設定根拠	<p>・東日本大震災の影響により、壊滅的な被害を受けた沿岸部の観光産業の再開を支援し、それを支える内陸部の観光地においては落ち込みを早期に回復すべく、誘客キャンペーン等の各種観光施策に強力に取り組むことにより、平成25年の観光客入込数を、震災前の水準まで戻すことを目標として設定した。</p>						
実績値の分析	<p>・平成23年の観光客入込数は、前年比30%減と大幅な落ち込みを記録した。特に沿岸部の津波被災地はインフラ復旧が中々進まず、滞在型の観光客を受け入れることが出来ない厳しい環境にある。この様な中にあっても、各種観光施策による誘客の成果が見られるとともに、沿岸部を訪れる「復興ツーリズム」のニーズが早期に生まれ、沿岸部の活性化への後押しにもつながっている。見込み値ではあるが、平成24年の入込数が震災前の平成22年対比で約84%までに回復している。</p> <p>・反面、震災後早期に再開した内陸部の観光地が、震災前の水準まで回復しない状況が見受けられる。このことについては原発事故の風評の影響が一因として考えられる。</p>						
全国平均値や近隣他県等との比較	-						

2	目標指標等名 (下段:説明)	評価対象年度	初期値	H23	H24	H25	H26
	観光消費額(億円) [フロー型]	指標測定年度	H20	H22	H23	H24	H25
	目標値	-	5,957	-	4,594	5,428	
	実績値	5,751	5,428	4,428	-	-	
	達成率	-	91.1%	-	-	-	
目標値の設定根拠	<p>・東日本大震災の影響により、壊滅的な被害を受けた沿岸部の観光産業の再開を支援し、それを支える内陸部の観光地においては落ち込みを早期に回復すべく、誘客キャンペーン等の各種観光施策に強力に取り組むことにより、平成25年の観光消費額を、震災前の水準まで戻すことを目標として設定した。</p>						
実績値の分析	<p>・入込数が大幅に減少したことにより、観光消費額も同様に落ち込んだ。「飲食費」、「みやげ代」、「交通費」など推計項目のほとんどで前年から減少となったが、「宿泊費」の項目のみ前年より増加した。これは、震災復興需要により宿泊者数が大幅に増加したことによるものであり、更に単価は震災前の平常地で推計しているためである。</p>						
全国平均値や近隣他県等との比較	-						



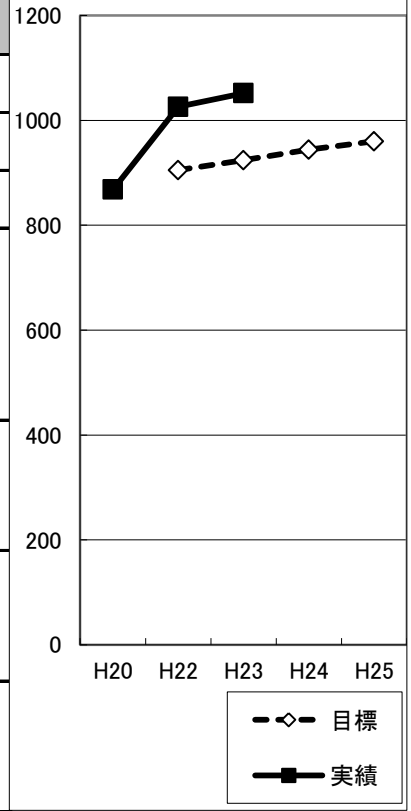
評価対象年度 平成24年度

政策 2 施策 5

目標指標等の状況

■達成率(%) フロー型:実績値/目標値 スtock型:(実績値-初期値)/(目標値-初期値)

3	目標指標等名 (下段:説明)	評価対象年度	初期値	H23	H24	H25	H26
	主要な都市農山漁村交流拠点施設の利用人口(万人) [フロー型]	指標測定年度	H20	H22	H23	H24	H25
	目標値	-	905	924	944	960	
	実績値	868	1,026	1,052	-	-	
	達成率	-	113.4%	113.9%	-	-	
目標値の設定根拠	<ul style="list-style-type: none"> ・H18～H20年度の利用人口の推移は、ほぼ横ばいであった。 ・そのため、目標年度(H25)までに利用人口の10%増を目標とし、目標値(H25)/初期値(H20)=110%の960万人を設定した。 						
実績値の分析	<ul style="list-style-type: none"> ・主に農産物直売所の利用増により、目標は達成している。 						
全国平均値や近隣他県等との比較	-						



評価対象年度	平成24年度
--------	--------

政策	2	施策	5
----	---	----	---

宮城の将来ビジョン推進事業											
評価番号	事業番号	事業名	平成24年度 決算見込額 (千円)	事業の状況							
		事業主体等	特記事項	事業概要			平成24年度の実施状況・成果				
1	1	仙台・宮城観光 キャンペーン推 進事業	-	事業概要			平成24年度の実施状況・成果				
				県内外の一般消費者及び旅行エージェン トや報道関係者などに対し、本県の観光 の情報や復興の状況を正確に伝えること により観光客の誘致を図るため、関係自治 体等と協力して観光キャンペーンなどを 実施する。			・翌年DCのプレキャンペーンとして、 仙台・宮城【伊達な旅】春キャンペーンを 開催した。また、DCに向けて、全国販 売促進会議、旅行商品造成キャラバン、 販売促進キャラバンなどを実施すると ともに、市町村や民間団体と一体とな って、観光資源を磨き上げ、旅行商品 への提案(提案数1,124件)を行った。				
		経済商工観光部 観光課	取組9に再掲 震災復興 3②⑥	事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)			
				①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性	H22	H23	H24	H25
				妥当	成果が あった	-	拡充	-	-	-	-
2	2	県外向け広報事 業	23,920	事業概要			平成24年度の実施状況・成果				
				県外向けの広報番組を放送し、宮城の 観光資源や食材・物産、復興の状況等 をPRする。			・BSテレビによる広報番組の制作・放 送 放送局:BS-TBS 放送時間:毎週月曜 19:54~20:00 放送回数:年51回(うち13回は再放 送) 平均視聴率:2.2%				
		総務部 広報課		事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)			
				①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性	H22	H23	H24	H25
				妥当	成果が あった	効率的	維持	22,896	23,914	23,920	-
3	3	外国人観光客誘 致促進事業	7,500	事業概要			平成24年度の実施状況・成果				
				海外からの観光客誘致促進のために各 種プロモーション事業を実施する。			・正確な観光情報の発信のため、海外 旅行博(KOTFA, ITF, ITE)への出展 やプロモーション活動を行った。また、 マスコミや旅行会社等を本県に招請 し、取材や視察を通じた情報発信を 行った。				
		経済商工観光部 観光課	取組9に再掲	事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)			
				①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性	H22	H23	H24	H25
				妥当	ある程度 成果が あった	概ね効 率的	維持	-	5,299	7,500	-
4	4	外国人観光客受 入体制整備事業	300	事業概要			平成24年度の実施状況・成果				
				来県する外国人が気軽に快適な旅行 をすることができるよう、受入体制の 基盤を整備する。			・宮城県観光誘致協議会とともに、 本県への外国人観光客誘致のため の研修会を開催した。(1回)				
		経済商工観光部 観光課	取組9に再掲	事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)			
				①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性	H22	H23	H24	H25
				概ね妥 当	ある程度 成果が あった	概ね効 率的	廃止	-	-	300	-

5	5	外国人観光客安心サポート事業 (富県創出県民総力事業)	1,800	事業概要				平成24年度の実施状況・成果			
				今後、増加が予想される中国人観光客が、快適な旅行やショッピングを楽しめるよう環境作りを行う。				・今後、訪日客が増加すると見込まれる中国市場からの誘客にあたり銀聯カードの利便性向上のため、仙台市、仙台観光コンベンション協会、宮城県観光連盟、宮城県誘致協議会とともに、協議会を設置した。			
5	5	経済商工観光部	取組9に再掲	事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)			
		①必要性		②有効性	③効率性	次年度の方向性	H22	H23	H24	H25	
		概ね妥当		ある程度成果があった	概ね効率的	維持	-	-	1,800	-	
6	6	外国人観光客誘客モデル事業	1,375	事業概要				平成24年度の実施状況・成果			
		外国人観光客の新たなニーズに対応するため、本県が誇る資源を活用した誘客モデル事業を実施する。				・台湾からの教育旅行の誘致のため、山形県や福島県などと連携し、台湾の教員を招請した。(1回)					
6	6	経済商工観光部	取組9に再掲	事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)			
		①必要性		②有効性	③効率性	次年度の方向性	H22	H23	H24	H25	
		妥当		ある程度成果があった	効率的	維持	-	-	1,375	-	
7	7	宮城の観光イメージアップ事業	1,219	事業概要				平成24年度の実施状況・成果			
		高まりつつある宮城の知名度を生かしながら、更なるイメージアップを図り、国内からの観光客等の誘致を促進する。				・北海道からの教育旅行の誘致のため、学校の教員と旅行会社を対象とした説明会を開催した。(札幌、函館 2回)					
7	7	経済商工観光部	取組9に再掲	事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)			
		①必要性		②有効性	③効率性	次年度の方向性	H22	H23	H24	H25	
		妥当		成果があった	効率的	維持	-	500	1,219	-	
8	8	秋の行楽みやぎ路誘客大作戦～秋色満載みやぎ・やまがたの観光～	非予算的手法	事業概要				平成24年度の実施状況・成果			
		秋の紅葉の時期に、東北自動車道の国見サービスエリア内に観光案内所を開設し、本県観光地までのルート案内や見どころ紹介等観光情報の発信を積極的に行う。				・山形県と連携し、東北自動車道国見サービスエリア内に、臨時観光案内所を設置し、ドライバーに対して、宮城・山形の観光PRを行った。					
8	8	経済商工観光部	取組9に再掲	事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)			
		①必要性		②有効性	③効率性	次年度の方向性	H22	H23	H24	H25	
		概ね妥当		ある程度成果があった	効率的	維持	-	-	-	-	
9	10	みやぎ観光戦略受入基盤整備事業	45,510	事業概要				平成24年度の実施状況・成果			
		高齢者、子どもづれの人、外国人等、あらゆる観光客の安全な利用に配慮した自然公園施設の再整備や、観光客が広域的に移動しやすい環境整備のため、観光案内板等を整備する。				・面白山・刈田岳・硯石線登山道整備のための測量設計を行った。 ・広域観光案内板の表示修正(震災で休廃止している施設の注意表示)を行った。また、ミニ観光案内所の看板デザインをH25デザインেশョンキャンペーンのコンセプトデザインに一新した。					
9	9	経済商工観光部	取組9に再掲	事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)			
		①必要性		②有効性	③効率性	次年度の方向性	H22	H23	H24	H25	
		概ね妥当		ある程度成果があった	概ね効率的	維持	-	2,919	45,510	-	

10	13	地域産業振興事業	20,006	事業概要				平成24年度の実施状況・成果					
				各地方振興事務所(地域事務所を含む)が各圏域の復興状況や課題を踏まえ、地域特性や農林水産物等の地域資源を効果的に活用し、市町村等と連携して早期復興や地域産業の活性化を図る。				・震災からの復興支援や地域資源を活用した事業の実施数(32事業) ※主な事業と成果 ・地域水産物・水産加工品販売支援「塩釜フェア」を県内大手スーパーとのタイアップにより開催し、被災企業の取引拡大を支援した。 ・被災企業が事業再開する上で課題となる、資金調達、事業再建計画、人材確保、販路拡大等について、関係する行政機関等が復興支援に関する制度等の説明会を開催し、あわせて個別の相談会を設けて、事業再開を支援した。					
11	14	グリーン・ツーリズム促進支援事業	3,524	事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)					
				①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性	H22	H23	H24	H25		
				妥当	成果があった	効率的	維持	-	11,769	20,006	-		
12	15	みやぎ県民文化創造の祭典(芸術銀河)開催事業	12,290	事業概要				平成24年度の実施状況・成果					
				都市住民と農山漁村の住民が、交流活動を通じて互いに支え合い、関係者全員が前向きに楽しく活動を継続できるグリーン・ツーリズムを目指し、推進環境の整備、人材育成、情報発信、地域活動の活性化に係る支援を行う。				・アドバイザー派遣の実施(23件)					
				県民に対して、優れた芸術文化の鑑賞と発表の機会を広く提供するとともに、被災市町等の学校や公共施設、福祉施設等に重点的にアーティストを派遣し、子どもたちを中心に地域住民が身近に芸術文化に触れ合うことのできる少人数・体験型の事業を実施する。				・音楽アウトリーチ事業 68か所 4,700人参加 ・美術ワークショップ 13か所 599人参加 ・舞台ワークショップ 24か所 1,252人参加 ・芸術銀河美術展 403人参加 ・シンポジウム 160人参加 ・共催事業、協賛事業 1,022,757人参加 (H25年3月12日現在)					
12	15	みやぎ県民文化創造の祭典(芸術銀河)開催事業	12,290	事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)					
				①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性	H22	H23	H24	H25		
				概ね妥当	ある程度成果があった	概ね効率的	維持	-	7,940	12,290	-		
決算(見込)額計			117,444										
決算(見込)額計(再掲分除き)			85,148										
経済商工観光部	取組3	再掲											
富県宮城推進室													
農林水産部													
農村振興課													
環境生活部	取組23	再掲											
消費生活・文化課	震災復興	6③②											

評価対象年度	平成24年度
--------	--------

政策	2	施策	5
----	---	----	---

取組に関連する宮城県震災復興推進事業										
評価番号	事業番号	事業名	平成24年度 決算見込額 (千円)	事業の状況						
		事業主体等	特記事項	事業概要			平成24年度の実施状況・成果			
1	1	観光復興緊急対策事業	13,240	事業概要			平成24年度の実施状況・成果			
		震災の発生に伴う旅行のキャンセルや風評、自粛等により県内の観光業界に多大な影響が出ていることから、正確な観光情報の提供を行い、観光客の誘致を進めるもの。			・旅行雑誌マップルや、新聞等への広告掲載を行った。また、コンベンション協会と一体となって、県内へのコンベンションの誘致を行った。					
	経済商工観光部	震災復興 3②⑥	事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)			
	観光課		①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性	H22	H23	H24	H25
		概ね妥当	ある程度 成果が あった	概ね効率的	維持	-	7,784	13,240	-	
2	2	観光復興イベント開催事業	3,000	事業概要			平成24年度の実施状況・成果			
		震災の影響により国内観光を手控えている県外の観光客に対して、首都圏等で開催するイベントに対して、補助するもの。			・県外で開催される本県の観光のPRを目的とするイベントに対して、補助した。(2件)					
	経済商工観光部	震災復興 3②⑥	事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)			
	観光課		①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性	H22	H23	H24	H25
		概ね妥当	成果が あった	概ね効率的	廃止	-	2,500	3,000	-	
3	5	みやぎ観光復興イメージアップ事業	3,200	事業概要			平成24年度の実施状況・成果			
		震災の発生により、県内観光に大きな影響が生じていることから、JR等と連携した首都圏等でのPR活動を行うものである。			・プロスポーツ3チームと連携した観光PRを行うとともに、JRの主要駅での観光復興をアピールするイベントを開催した。					
	経済商工観光部	組9に再掲 震災復興 3②⑥	事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)			
	観光課		①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性	H22	H23	H24	H25
		概ね妥当	ある程度 成果が あった	効率的	維持	-	-	3,200	-	
4	6	みやぎ観光復興誘客推進事業	3,900	事業概要			平成24年度の実施状況・成果			
		本県への観光客の誘致促進を図るため、旅行会社に造成を働きかけ、県外から本県向けの旅行商品造成する場合、その広告費の一部を補助するものである。			・首都圏から本県への観光客の誘客を進めるため、仙台・宮城単独商品を造成する場合に、観光PR記事掲載に対する助成を行った。(造成本数13本)					
	経済商工観光部	震災復興 3②⑥	事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)			
	観光課		①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性	H22	H23	H24	H25
		妥当	成果が あった	概ね効率的	維持	-	-	3,900	-	

5	7	みやぎ観光復興再生モデル事業	98,798	事業概要				平成24年度の実施状況・成果			
		経済商工観光部	震災復興 3②⑥	事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)			
		観光課		①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性	H22	H23	H24	H25
妥当	成果があった	概ね効率的	廃止	-	5,607	98,798	-				
6	8	気仙沼・南三陸震災復興キャンペーン！首都圏誘客キャラバン事業	3,763	事業概要				平成24年度の実施状況・成果			
		経済商工観光部	震災復興 3②⑥	事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)			
		富県宮城推進室		①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性	H22	H23	H24	H25
妥当	成果があった	効率的	廃止	-	-	3,763	-				
7	9	みやぎ観光プロモーション活性化事業	23,548	事業概要				平成24年度の実施状況・成果			
		経済商工観光部	震災復興 3②⑥	事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)			
		観光課		①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性	H22	H23	H24	H25
概ね妥当	成果があった	効率的	廃止	-	-	23,548	-				
8	10	みやぎ観光誘客加速化事業	10,417	事業概要				平成24年度の実施状況・成果			
		経済商工観光部	震災復興 3②⑥	事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)			
		観光課		①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性	H22	H23	H24	H25
妥当	成果があった	効率的	廃止	-	-	10,417	-				
9	14	観光施設再生支援事業	596,439	事業概要				平成24年度の実施状況・成果			
		経済商工観光部	震災復興 3②⑦	事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)			
		観光課		①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性	H22	H23	H24	H25
妥当	ある程度成果があった	概ね効率的	維持	-	598,312	596,439	-				

10	15	自然公園施設災害復旧事業	19,845	事業概要				平成24年度の実施状況・成果			
				東日本大震災で被災した自然公園施設について、復旧工事等を行う。				<ul style="list-style-type: none"> ・仁王島の復旧工事は計画通り施行。 ・管理道路復旧工事は、入札不調により施行着手が遅れ、渡月橋復旧工事は資材等の不足により進捗が遅れ、それぞれ繰越となっている。 			
10	経済商工観光部 観光課	震災復興 3②⑦		事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)			
				①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性	H22	H23	H24	H25
				妥当	ある程度 成果が あった	概ね効率的	維持	-	83,636	19,845	-
11	19	グリーン・ツーリズム復興支援事業	8,350	事業概要				平成24年度の実施状況・成果			
				震災により被災した沿岸部実践団体(者)への支援を行うとともに、県全体のグリーン・ツーリズム活動の底上げを支援し、都市住民との交流による農林水産業や農山漁村を力強く支えるサポーターを増加させる。				<ul style="list-style-type: none"> ・グリーン・ツーリズム復興関連の情報収集 ・交流体験プログラムの作成 ・受入組織復興支援 ・広報誌作成 			
11	農林水産部 農村振興課	震災復興 4①⑤		事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)			
				①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性	H22	H23	H24	H25
				妥当	成果が あった	効率的	維持	-	-	8,350	-
決算(見込)額計		784,500									
決算(見込)額計(再掲分除き)		784,500									